

# オーシャンズ・デイ・アット・ナゴヤ

生物多様性条約第10回締約国会議にて

2010年10月23日(土) 午前9時～午後6時

会場：名古屋国際会議場4号館白鳥ホール

(〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号)

海洋・沿岸・島嶼に関するグローバルフォーラムは、生物多様性条約事務局、地球環境ファシリティ及び海洋政策研究財団と共同で、エコロジー・エネルギー・持続可能な開発及び海洋省（フランス）の資金援助を受け、下記の各機関の協力により、「オーシャンズ・デイ・アット・ナゴヤ」を開催いたします。

みなさま、是非、ご参加下さい。

協力機関：

国連海洋関連機関 (UN-OCEANS)

国連開発計画 (UNDP)

国連教育科学文化機関 (UNESCO) 政府間海洋学委員会 (IOC)

UNESCO エコロジー科学局

国連大学

環境省 (日本)

内閣官房総合海洋政策本部事務局 (日本)

漁業水産局(カナダ)

エコロジー・エネルギー・持続可能な開発及び海洋省／水・生物多様性総局 (フランス)

外務・ヨーロッパ省 (フランス)

海洋保護区庁 (フランス)

国際自然保護連合 (INCN)

アジア開発銀行

ザ・ネイチャー・コンサーバンシー (TNC)

地球環境国際議員連盟 (GLOBE)

国際サンゴ礁イニシアチブ (ICRI)

国際海洋生物多様性イニシアチブ (GOBI)

韓国海洋研究院 (KORDI)

ワールドオーシャンネットワーク (WON)

デラウェア大学ジェラルドマンゴーン海洋政策センター

## 背景

オーシャンズ・デイ・アット・ナゴヤは、海洋・沿岸域の生物多様性喪失の主要な原因に対応し、生物多様性保全に対するグローバルな目標の進展状況を評価し、地球規模の海洋問題への対応の方向性を明らかにすることの必要性について、ハイレベルの政策決定者に問題を提起します。オーシャンズデーには、各国の政府機関、国際機関、NGO、学術機関等から代表が参加し、海洋・沿岸域の生物多様性に関する重要なテーマに沿ってパネルディスカッションを行います。

多くの科学的知見が海洋および沿岸地域の生物多様性の急速な減少に警告を鳴らしています。2015年までに世界の人口の半数が沿岸地域に居住し、また気候変動の影響が増大するであろうとの予測されており、海洋生物多様性の喪失の主たる原因は、対応が困難であり、問題が大きくなることが予想されます。

このような問題を考慮し、生物多様性条約の締約国は、1995年に海洋生物多様性に関する脅威に対応するため世界的な合意として、「海洋および沿岸域の生物多様性に関するジャカルタ・マニラ宣言」を採択しました。2002年には、各国の政府は、2010年までに生物多様性の喪失率を改善し、また、2012年までに海洋保護区ネットワークを形成するという目標を設定しました。

しかしながら、これらの生物多様性に関連した目標設定は、その期限が迫っている今でも達成されていません。このため、国際社会は目標達成のための進展が不十分であった理由を熟慮し、海洋生物多様性に係る次なる目標に向かって前進しなければなりません。国際生物多様性年である本年開催される生物多様性条約第10回締約国会議（CBD/COP10）は、ハイレベルの政策決定者に向けて海洋および沿岸域の生物多様性の問題についての対応を呼びかけ、現在及び将来世代のための海洋生物多様性の保全に向けた国際社会における支援を促進する好機となることが期待されます。

## 将来に向けた展望

オーシャンズ・デイ・アット・ナゴヤでは、海洋の長期的な健全性の確保に向けて必要な行動について取り組みます。具体的には、総合的な海洋・沿岸域管理、海洋・沿岸保護区ネットワークの取組み強化、生物多様性保全に向けた利害関係者間の協力の推進、海洋・沿岸域の保全、持続的な利用に関する新たな政治的約束の必要性を強調します。本イベントで採択される予定の「ナゴヤ海洋声明」は、これらの将来ビジョンの主要な要素を概観し、海洋・沿岸域の生物多様性やそれがもたらす価値あるサービスが将来にわたり維持、発展するような意欲的でタイムリーな取組みを求めます。

## プログラム

9:00-10:15 開会

共同議長挨拶 ビリアナ・シシン・セイン/海洋・沿岸・島嶼に関するグローバルフォーラム  
寺島紘土/海洋政策研究財団 常務理事  
ロナルド・ジュモー大使/セイシェル国連代表部

開会演説	近藤昭一/環境副大臣 アーメッド・ジョグラフ/生物多様性条約事務局長
------	---------------------------------------

10:15-11:15

セッション1：生物多様性喪失の抑止と海洋保護区ネットワークの設立：現状と進展  
発表

- 地球規模の海洋生物多様性の現状
- ジャカルタ・マンデート実施に対する評価

パネルディスカッション

- 海洋生物多様性の地域・国ごとの現状とトレンド
- モニタリング、レポーティング、情報交換に関する調整機能の改善
- 海洋保護区の視点に立ったガバナンス、参加、公平、利益共有に関する生物多様性条約の目標の進展状況

11:15-11:30 コーヒーブレイク

11:30-12:45

セッション2：国家管轄内外の地域における海洋生物多様性保全の統合的生態系アプローチ  
発表

- 海洋・沿岸生物多様性に対する統合的生態系アプローチの活用に向けた機会と課題
- 国家管轄外地域において保全が必要な生態系的・生物的に重要な海域の科学的知見に基づく特定

パネルディスカッション

- 生物地理学的分類、環境影響評価、戦略的環境評価、海洋空間計画、およびその他の海域に着目した管理手法
- 公的支援と共同体による管理（スチュワードシップ）の構築
- 国会議員と海洋関連法制の役割

12:45-13:00 演説 トーマス・ラブジョイ博士  
生物多様性議長、ハインツ科学経済環境センター

13:00-14:00 昼食

14:00-16:00

セッション3: 生物多様性と海洋保護区に関連した国際的目標達成のための取組み

演説 ジェローム・ビノン フランス下院副代表

発表

- 海洋生物多様性保全のための国家レベル・地域レベルでの能力開発
- 日本の海洋生物多様性保全に向けた取組み
- 海洋保護区その他に関する2012年の持続可能性に関する世界サミット(WSSD)目標の世界的な取組の方向性
- ベトナムの海洋生物多様性保全戦略
- 海洋生物多様性の保全のためのセクター間地域海洋ガバナンスの強化

パネルディスカッション

- 国家及び世界レベルでの海洋生物多様性のガバナンス及び政策の強化
- 小島嶼開発途上国における生物多様性の保全とサンゴ礁生態系の保護
- 長期的な国際的協力による科学研究イニシアチブの促進
- 海洋保護区ネットワークの構築に向けて
- 生物多様性と生態系サービスの政府間プラットフォームの構築

16:00-16:30

演説 ジャン・ピエール・テポール/フランス外務・ヨーロッパ省 環境問題担当大使  
ベニー・アレン パプアニューギニア環境・保全大臣

16:30-18:00

セッション4: 海洋生物多様性: 将来の展望

- 生物多様性保護のための2020年目標
- ナゴヤ海洋声明: 新たな政治的約束と前進に向けて

閉会

寺島紘士/海洋政策研究財団 常務理事

ビリアナ・シシン・セイン/海洋・沿岸・島嶼に関するグローバルフォーラム